

「10年後の東京 ～東京が変わる～」の全体概要

第1章 東京の都市戦略

○ 現在の東京の到達点とオリンピックを見据えた新たな都市戦略の必要性

1 東京の歩みと到達点、さらなる成熟のステージへ

- 再びオリンピックを契機に更に高いレベルの成熟へ
 - ・交通渋滞等、20世紀の負の遺産を解消
 - ・より機能的で魅力的な東京の姿を世界に「範」として示す
 - ・美しい街、安全な街を実現して、東京の価値や信用力を高め、レガシーを次代に継承

2 都市戦略の必要性と「10年後の東京」を貫く3つの視点

- 「10年後の東京」は、オリンピックを梃子にさらなる自己変革を進める東京が世界に示す「都市戦略」
- 「10年後の東京」を貫く3つの視点
 - ・科学技術(省エネ技術、耐震・免震技術、ユビキタス技術)
 - ・人材育成(教育、産業、観光、芸術文化、医療、スポーツ)
 - ・東アジア(東京が中心となって技術革新や先進的な環境政策を展開、東京版スポーツ ODA)

3 10年後に向けた8つの目標

第2章 人口動向からみた10年後の東京

- 日本の人口が減少するなか、東京の人口は当面増加
- 元気な高齢者が増大、一人暮らしの高齢者も急増
- 環状方向の連携を強化することで、東京圏はより一体的な生活・経済圏に

第3章 10年後の東京

- 1 水と緑の回廊で包まれた、美しいまち東京を復活させる
 - ◇ グリーンロード・ネットワークの形成、1,000haの緑の創出、水辺空間の再生、無電柱化の推進、屋外広告物規制等による景観形成 等
- 2 三環状道路により東京が生まれ変わる
 - ◇ 三環状道路の整備による新しい東京の姿(渋滞解消、環境改善、陸・海・空のネットワーク向上、多摩地域が首都圏の中核拠点に発展、バスの復権) 等
- 3 世界で最も環境負荷の少ない都市を実現する
 - ◇ 「地球温暖化対策推進基金」創設、世界最高水準の省エネ対策など「カーボンマイナス東京10年プロジェクト」の推進 等
- 4 災害に強い都市をつくり、首都東京の信用を高める
 - ◇ 地震に対する東京の国際的評価を向上(緊急輸送道路沿道の建物、小中学校、病院など防災上重要な建物の100%耐震化)、最先端技術のテロ対策 等
- 5 世界に先駆けて超高齢社会の都市モデルを創造する
 - ◇ 「福祉・健康安心基金」創設、アルツハイマー病の予防・治療研究を推進、障害者雇用を3万人創出、待機児童5千人を解消、専門職大学院「メディカルスクール」の検討 等
- 6 都市の魅力や産業力で東京のプレゼンスを確立する
 - ◇ 外国人旅行者を1,000万人に倍増(文化発信、舟運、ユビキタス技術の活用、ユニバーサルデザイン)、「創造的都市型産業」への戦略的支援、多摩シリコンバレー 等
- 7 意欲ある誰もがチャレンジできる社会を創出する
 - ◇ 学力向上の徹底、「再チャレンジ応援奨学金」・「アジア人材ファンド」の創設、ものづくり人材の複線的教育システムの確立、社会的企業家の育成 等
- 8 スポーツを通じて次代を担う子どもたちに夢を与える
 - ◇ 「スポーツ・文化振興交流基金」創設、「東京版スポーツ ODA」、ボランティア育成 等

第4章 「10年後の東京」の実現に向けて

- 全庁的な推進体制の整備(「東京オリンピック開催準備基金」の活用、都独自の「地球温暖化対策推進基金」・「スポーツ・文化振興交流基金」・「福祉・健康安心基金」の創設、スポーツ専管組織の新設、重点事業化等)
- 都民・企業・行政とが一体となった取組を推進(募金、ムーブメントなど)
- オリンピック立候補ファイルへの反映

3 世界で最も環境負荷の少ない都市を実現する

世界一の温暖化対策で子どもたちに豊かな環境を引き継ぐ

現状

- 日本の目標：CO₂排出を2012年までに1990年比6%減(京都議定書)
 - 日本(2005年)：1990年比約5.8%増、2000年比0.7%増
 - 東京(2004年)：1990年比約5.8%増、2000年比2.9%増
- GDP当たりのエネルギー消費量は世界最小
 - 日本を1とした場合
 - ・EUは1.7
 - ・アメリカは2.0
- 中小事業者、建築物対策や都市排熱の抑制などが課題

10年後の東京の姿

- CO₂排出削減目標
 - 2020年までに
 - 2000年比25%減を達成**
- 増大するアジアのエネルギー消費の効率化に向け、世界最高水準の省エネ技術の普及支援

東京圏(東京、埼玉、千葉、神奈川)に相当する面積の森林が吸収するCO₂量に匹敵

	大ロンドン市	ベルリン市	ニューヨーク州	カリフォルニア州
削減目標	2010年までに1990年比20%削減	2010年までに1990年比25%削減	2018年までに1990年比10%削減	2020年までに1990年レベルまで削減

実現に向けた取組

世界で最も環境負荷の少ない先進的な環境都市を実現するため「カーボンマイナス東京10年プロジェクト」を、東京全体で展開

- 10年間の運動を支えるため「地球温暖化対策推進基金」設立
- 都庁の率先行動として、2007年度重点事業を先行的に展開
- 都民、都市開発事業者・民間企業や環境団体が一体となり推進

世界最高水準の省エネ技術を活用した東京発のエネルギー戦略

- 都有施設、民間建築物の設備を世界最高水準の省エネ仕様に転換
- 都市開発によるエネルギー消費の効率化を、都市政策と共に推進
 - ・ヒートポンプ、コージェネレーションシステム等の導入促進
- 経済的手法を活用したCO₂大幅削減促進のしくみづくり

再生可能エネルギーの大胆な活用

- バス事業へのバイオディーゼル燃料の導入促進
- 豊洲新市場に太陽光発電パネルを積極導入
 - ・建替の都営住宅、マンションなどにも設置し100万kw相当の発電達成
- 木質チップや食品廃棄物の活用によるバイオマス発電の推進

あらゆる都市空間の緑化の推進

- 1,000haの緑の創出によるクーリング効果
 - ・校庭芝生化、都市開発事業者や都民の協力を得た屋上緑化・壁面緑化等
- 緑のネットワークの形成による、都心への風の呼び込み
- 都心エリアで、排熱抑制に向けた集中的なヒートアイランド対策

